

京の地で受け継がれる安全と健康（取組1）

ゼロ災3か月運動の始まり



（第1回シンボルマーク）



（第35回シンボルマーク）

- 昭和59年の休業4日以上¹の労働災害が5,560人（対前年93人増）、死亡者数が46人（対前年13人増）となったことから、労働災害を減少させる取組として、「点」としての安全大会ではなく、「線」としての行事を考えたかどうかという当局職員の発案で始まった。
- 「労働災害ゼロ」だけでなく「労働者の健康確保」も目標としている。
- 第1回は、昭和60年10月～12月の期間を対象として「3か月無災害運動」として実施した。

（初回の取組結果）

参加申込み事業場数	3,314
無災害達成事業場	2,448
達成率	73.9%



（「無事カエル」は清水焼）

- 第1回から現在へ続いているシンボルマーク（左上）は、「柳に飛びつく蛙」をイメージ。

現在おなじみとなっている「蛙」は、当時の当局職員が、平安中期の書道家小野東風の故事「柳に飛びつく蛙」が「失敗しても何度でもチャレンジする」ことを現していることから、達成が難しい「労働災害ゼロ」につながるものであるとイメージし、蛙が安全帽をかぶった絵を描いたもの。

- 蛙の置物（右上）は、「無事帰る（蛙）」をイメージ
お腹に「ゼロ災害 無事家庭に帰る（蛙）」と記載した清水焼の置物も製作。
- 蛙を描いたステッカー、ポスターは、現在も京都労働安全衛生関係団体等連絡協議会において販売されている。（蛙の置物は平成元年まで販売された。）

- 取組のスタートは、華々しいセレモニーが開催された。

初日は京都商工会議所のホールにおいて、「職場の安全衛生・京都の祭典」が開催され、京都労働基準局から商工会議所ビルまで、京都市消防局の音楽隊を先頭に約200人によるパレードが行われた。

また、前述の祭典においては、「無災害宣言」や若手漫才師による「安全漫才」が行われたほか、別室では保護具等の展示も行われた。（「京都労働基準局50年誌」より）



京の地で受け継がれる安全と健康（取組2）

ゼロ災3か月運動の名称の変遷

第1回（昭和60年）

3カ月無災害運動

第2回（昭和61年）

ゼロ災害全員参加100日運動

第3回（昭和62年～平成元年）

職場も家庭もゼロ災3カ月運動

当時、家庭災害の年間死亡者が6,000～10,000人と言われていた状況を職場での災害と共にとらえ、職場の災害も家庭の災害も相関連することを認識し一歩踏み入れた労働災害防止活動となった。

第6回（平成2年～4年）

京都職場も家庭もゼロ災3・9運動

5年間続いた無災害運動に加え「安全衛生計画」を導入し定着させることを目的とした3か月と9か月の新しい運動を展開

- ・3か月運動…3か月間の災害ゼロと安全衛生計画を樹立・達成させる。
- ・9か月運動…9か月間の災害減少目標と安全衛生計画を樹立・達成させる。

第9回（平成5年）

職場も家庭もゼロ災3か月運動

第10回（平成6年）

京都ゼロ災3か月運動・10周年

第11回（平成7年～現在）

京都ゼロ災3か月運動

ゼロ災3か月運動の近年の取組状況

回数	年度	参加事業場数	達成事業場数	達成率（%）
25	平成21年度	2,415	2,285	94.6
26	平成22年度	2,630	2,480	94.6
27	平成23年度	2,633	2,497	94.3
28	平成24年度	2,637	2,481	94.8
29	平成25年度	2,761	2,600	94.2
30	平成26年度	3,142	2,939	93.5
31	平成27年度	2,779	2,639	95.0
32	平成28年度	2,670	2,540	95.1
33	平成29年度	2,592	2,475	95.5
34	平成30年度	2,562	2,459	96.0
35	令和元年度	2,418	（集計中）	（集計中）